

コースNo.59 陽だまりの丘からカンカン石と長崎街道、石工の里

コース作成 松永

起点 (牛津)陽だまりの丘公園駐車場

距離 6.2キロ

見所 高台からの眺望、カンカン石、街道の風情・歴史、「石工の里」の径

注意点 主要道路の一部を歩きます。交通ルールを守って

コース概略 ①陽だまりの丘公園(丸石塚古墳)の散策ルートを楽しむ



②国道からカンカン石、お堂、更にも上から平野部を眺める

③長崎街道牛津寺町宿を歩く

④牛津運動公園で一休み



⑤山の中に隠れた八幡社(アップダウンあり)

⑥栄福寺(敷地内にある石造物 右写真3枚)

⑦砥川小学校横から石工の里のルートを歩く

⑧平川与四右衛門生家

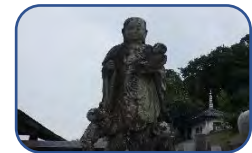
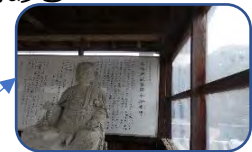
⑨堤の周りを楽しむ

⑩もう一つの八幡社

⑪もう一つの堤から山辺の径へ(登り坂を一踏ん張り)

⑫ゴルフガーデンの横を歩けば

⑬あっという間にゴール



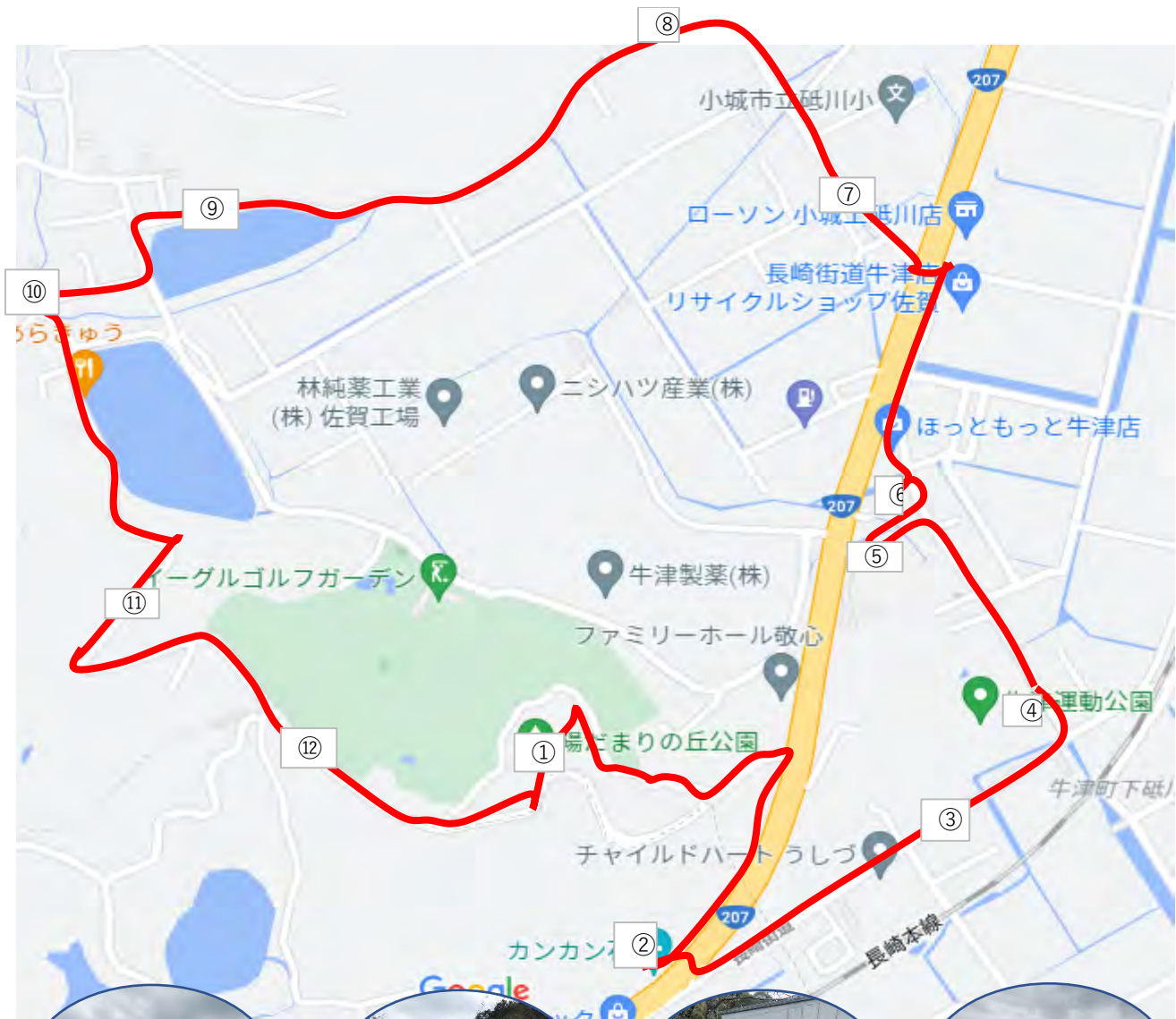
本コースは大和町の村岡様にヒントを頂戴しました。ありがとうございます。

*② カンカン石:須古城主が多久の千葉氏を攻めるときに、家来の青木門人の妻が身ごもっていたため、洞穴に隠し、上から大きな石のふたをした。門人が須古城に逃げ延びた後、洞穴から赤子の泣き声が噂になる。名主と村人が石のふたを取ったら穴の中に男の赤ん坊がいた。名主が育て、その後、大きな石を叩くとカーン、カーンと鳴った。秀吉が大阪城築城の折り鍋島藩がカンカン石を差し出したが秀吉に嫌われ捨てた。村人は持ち帰り、元の位置に置いた。石は再び鳴り響いた。その後観音堂建立。(佐賀県大百科事典:佐賀新聞社より抜粋)

*⑦⑧ 砥川地方の石工:肥前石工の発祥。砥川他小城地方には石材を多く産し石工の分布、量とも多く江戸時代には多くの名工を出した。特に有名なものは谷村の平川与四右衛門。1688年銘の唐津市近松寺遠室禅寺師寿像から1736年銘の牛津町寺町永福寺⑥地藏尊立像まで20基以上の作品があり、長崎県や熊本県にも肥前石工をして名を知られている。(出典:上記と同一)

さすが石工の里:至る所に石造物発見、表情を楽しみながら歩けます。





①陽だまりの丘公園



②カンカン石入口



②カンカン石



②上に上がって



横断歩道を渡る



③長崎開講奥を左



牛津運動公園



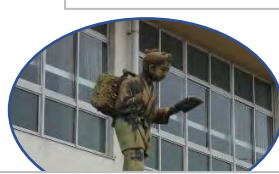
⑤八幡社入口



⑤八幡社鳥居



⑥永福寺



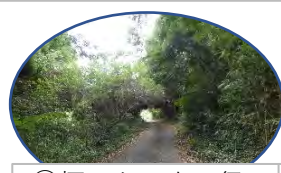
砥川小学校の二宮金次郎像



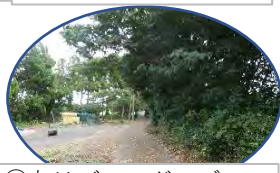
⑦石工の里ルート



⑩八幡社入口鳥居と社殿



⑪趣のある山の径



⑫左はゴルフガーデン